

石川県リハビリテーションセンターニュース

～令和2年度事業等について～

目次

今年度のリハビリテーションセンター事業のご案内	1
地域リハビリテーション相談・支援事業	2
リハビリテーションセンター研修事業	3
難病相談・支援センター事業	4
高次脳機能障害相談・支援センター事業	5
虹の窓から	6

今年度のリハビリテーションセンター事業のご案内

皆様には、日頃より当センターの事業に多大なご支援ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。また、この度の新型コロナウイルス感染症拡大防止に対し、昼夜を問わず最前線でご尽力をいただいている医療・福祉・介護に従事されている皆様に、心より感謝を申し上げますとともに深く敬意を表します。

石川県の緊急事態宣言は、5月15日に解除されましたが、新型コロナウイルスの感染が終息したわけではなく、今後とも第2波、第3波に備えて「新しい生活様式」すなわち「3密（密集・密接・密閉）の回避」、「マスク着用・手洗い・手指消毒」、「不要不急の移動自粛」の継続、定着が重要です。

このような状況の中、当センターでも、障害のある方や高齢者に対する相談・支援事業は、徹底した感染防止対策のもとで継続的に取り組んでいます。また、医療・福祉・介護に従事される皆様を対象にしたリハビリテーション技術支援事業や、市町担当者を交えた支援者同士のネットワーク強化事業等の普及啓発事業は、さまざまな業界でも試行されているWeb会議システムを積極的に活用し、実習が不可欠な研修事業等は少人数での分散形式で開催するなど、感染予防で最も重要な「3密の回避」に細心の注意を払いながらの実施を考えています。

今回のニュースでは、県リハビリテーション支援センター、バリアフリー推進工房、難病相談・支援センター、高次脳機能障害相談・支援センターの主要業務を改めて紹介するとともに、現時点で確定している今年度事業をご案内します。なお、開催日時や場所等が未定の事業は、当センターのホームページや郵送等により随時お知らせし、変更・中止になった場合は事前にご案内します。

さて、当センターは平成6年10月に設立されて以来、皆様の温かいご支援ご協力により、昨年で25年が経過しました。今後とも、皆様のニーズや信頼に応えるための新たな知見や技術を積極的に取り入れ、相談支援機能や研修機能等の更なる充実強化に努めてまいりますので、なお一層のご指導を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

今年度の事業は、新型コロナウイルス感染症の動向を踏まえながら開催を検討していく予定です。

ご案内は随時郵送等にてお知らせするとともに、当センターのホームページの新着情報欄に更新していきます。

石川県リハビリテーションセンター ホームページ
<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kousei/rihabiri/> QRコード



地域リハビリテーション相談・支援事業

地域リハビリテーション相談・支援事業では、子どもからお年寄りまですべての障害のある方が自立度の高い生活や社会参加を促進するため、理学療法士や作業療法士、リハビリテーション工学技師、保健師等の専門スタッフが、県内の保健・福祉・医療・教育・職業の関係機関からの相談を受け、地域での生活・就学・就労に関する支援を行っています。

地域リハビリテーション相談・支援の内容 令和元年度実績

- 地域リハビリテーションセンター相談（個別ケースに対する相談・支援事業） 1,763件（実人数274人）
 - ①福祉用具の適合や住環境調整による自立支援
 - ②日常生活動作（ADL：食事、排泄等）、生活関連動作（IADL：家事、金銭管理等）の自立を促す支援
 - ③健康管理、機能低下や変形、生活不活発の予防に関する支援
 - ④障害者の自動車運転に関する支援 等
- 講師及び連絡会等への参加等（事業支援） 58件

【支援事例（市町と特別支援学校との連携）】 自分で自由に移動ができるようになりたい！



自分で移動するための手段として電動車椅子に挑戦したい（就学中に可能性を試したい）

本人の身体能力と電動車椅子の適合調整（操作検討するための試用機器の調整）



試用機器の足操作の様子（移動が可能に）



試用機器による職場体験実習の様子（配達練習が可能に）



座位保持装置付き電動車椅子が完成（高校卒業式での入・退場と卒業証書授与が可能に）



障害のある方が、福祉用具の利用や住環境の調整による具体的な生活イメージを深めるには、当事者や家族、支援者が、実際の用具や環境でシミュレーション及び確認する試用検討が重要です。

当センターでは、生活の自立や社会参加の促進を目的に、本人の能力と環境及び福祉用具の適合を検討するためのバリアフリー体験住宅「ほっとあんしんの家」や約2000点の福祉用具を整備しており、試用検討などの相談支援に対応しています。さらに、既製品では解決できない福祉用具の改造や住宅改修に関する支援も行っています。



シミュレーションができるバリアフリー体験住宅「ほっとあんしんの家」

リハビリテーションセンター研修事業

1 福祉用具に関わる研修事業

福祉用具に関する情報や適合技術、介助者の介助負担軽減につながる用具の選定や使用方法について、基本的な内容から応用編まで様々な研修会を企画しています。今年度は、小規模での開催またはWeb会議システムを用いて、職場からでも参加できる内容で計画しています。

(1) 自立支援機器情報交換連絡会

上半期は「車椅子」をテーマに、Web会議システムを用いて開催します。車椅子ユーザーや各メーカーに協力いただき、車椅子と電動車椅子の選択に必要な知識や、車椅子の最新情報等について説明します。

回	日程	時間	内容	対象者
1	7月30日(木)	16:30~ 17:10	車椅子適合の基本的な考え方	理学療法士、 作業療法士、 言語聴覚士、 福祉用具取扱業者、 福祉用具専門相談員
2	8月6日(木)		車椅子の種類と機能について 協力：(株)松永製作所	
3	8月20日(木)		電動車椅子の種類と機能について	
4	9月3日(木)		姿勢変換ができる軽量コンパクト電動車椅子 協力：(株)今仙技術研究所	
5	9月17日(木)		操作能力に応じた様々な入力装置の紹介	
6	10月1日(木)		介護保険制度と補装具制度について	

(2) 自立支援機器スペシャリスト人材育成 ～フォローアップ研修～

平成29年度から実施しているスペシャリスト人材育成研修(全3回コース)の修了者、及び平成25年度から28年度に実施した補装具適合・製作等実践的技術研修(全6回コース)の修了者を対象に、リハ専門職と福祉用具専門相談員によるグループワークで、車椅子やコミュニケーション機器に関するフォローアップ研修を開催しています。多職種でのグループワークであり、昨年度も大変好評でした。修了者の皆様にご案内しますので、ぜひお申し込みください。

(3) 職場環境改善研修

今年度は、介助者の腰痛予防を目的として、施設職員を対象とした「起居・移乗動作」をテーマに、Web会議システムを用いて職場から参加できるように企画しています。職場の仲間と研修に参加することで、知識や技術の共有を図ることを目指していますので、ぜひ職場内の勉強会として活用してください。

2 リハビリテーション技術支援の地域づくり (在宅リハビリテーション検討会)

子どもからお年寄りまですべての障害のある方が、住み慣れた地域で安心して生活が送れるよう、平成29年度から自立を視点においた相談及びリハビリテーション技術支援を適切に提供するため、身近な地域における支援者同士のネットワークづくりの強化を目的とした「在宅リハビリテーション検討会」を開催しています。今年度は、「リハ専門職同士の連携」に焦点をあて、脊髄損傷や脳性麻痺、神経・筋疾患等の難病等の医療的ケアが必要とされる方が、自立度の高い在宅生活を送れるよう、同職種で有益な情報伝達が行える関係づくりを目的に、事例を通じた検討会を開催します。今年度も地域の実情に応じた検討ができるよう、集合研修形式で県内4圏域にて実施する予定です。

3 市町事業に関与するリハビリテーション専門職の広域派遣

平成27年度より、石川県理学療法士会・作業療法士会・言語聴覚士会連絡会(以下、連絡会)との協働で、リハ専門職が他職種と積極的に連携して市町事業に関与できるネットワークづくりと人材育成を目的に、研修会や啓発普及に関する事業を実施してきました。今年度も連絡会と連携しながら、新しい生活様式での介護予防・自立支援に向けた研修等を企画していきます。

4 特別支援教育へのリハビリテーション支援について

特別支援学校に関わるリハ専門職の情報共有を目的に、今年度は日頃から特別支援教育に関わっているリハ専門職同士が交流する場を作りたいと考えていますので、関係の皆様のご参加をお待ちしています。

難病相談・支援センター事業

難病相談・支援センターでは、難病患者さんとご家族が抱えている病気や日常生活上の不安を軽減し、安心して療養生活を送ることができるよう、各種相談をはじめ、当事者間の交流、講演会の開催、福祉用具や住宅環境の調整等、支援を行っています。

1 難病ピア相談

当センターでは、職員による相談のほか、難病ピア・サポーターによるピア相談をお受けしています。

あるピア相談でのことです。相談者のAさんは、ピア・サポーターに向かい、取り止めのない思いを語られました。サポーターは、出口がないようにも思えるAさんのお話に対して、けして遮らず、時折、ご自身の体験を語り、共感を示しながら受け止め続けました。相談の後には、Aさんのお顔がどこかスッキリとした前向きな表情に変わられたのが印象的でした。安心できる聴き手を前に、思いを言葉にしてつむぎ出すことで、Aさんの気持ちが少しずつ整理されたようでした。

ピア・サポーターは、同じように病気の経験や悩みを持つピア（仲間）として、相談者のお話を丁寧にお聴きします。

今年度は、毎月1回開催している疾患を限定しない交流会「難病カフェ（リボンの会）」において10月、11月にピア相談の日を設けます。ピア相談を希望する方がいらっしゃいましたら、ぜひ当センターまでご連絡ください。

2 就労相談

「自分の症状や体力にあった仕事を見つけたい」「会社に難病があることを伝えた方がよいだろうか」等、難病のある方の仕事に関する悩みや疑問を解消するために、個別相談の日を設けています。

日 時：毎月第3木曜日 13:30～15:30 予約制です。

助言者：ハローワーク金沢 難病患者就職サポーター 国田 直樹 氏

3 専門相談

「これから症状がどう進んでいくのか不安」「どういう治療法があるのか知りたい」等、病状や治療などについて、専門医による面接相談を行っています。予約制で、日時は事前に調整します。

担当専門医	対象疾患等
脳神経内科医	パーキンソン病、脊髄小脳変性症、多発性硬化症/視神経脊髄炎、重症筋無力症、多系統萎縮症、進行性核上性麻痺、筋萎縮性側索硬化症、大脳皮質基底核変性症、筋ジストロフィー 等
免疫内科医	シェーグレン症候群、全身性エリテマトーデス、全身性強皮症、皮膚筋炎、多発性筋炎、大動脈炎症候群、悪性関節リウマチ、成人スチル病、IgG4関連疾患 等
整形外科医	後縦靭帯骨化症、特発性大腿骨頭壊死症、広範脊柱管狭窄症 等
難病医療相談員	社会福祉制度や療養に関する相談

4 パソコン・タブレット教室

「アプリを使いこなしたい」「パソコンで家計簿をつけたい」等、初心者でも、親切にサポートいたします。交流も目的とした教室です。

日 時：隔週水曜日 13:30～15:30 初回参加時のみ予約が必要です。

- ★ 対象の方がいらっしゃいましたら、ぜひお勧めください。
- ★ また、秋以降に、難病・小児慢性特定疾病の医療講演会・相談会、同病者交流会を予定しております。詳細が決まりましたら、ホームページにてお知らせいたします。

石川県難病相談・支援センターホームページ
<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/nanbyou/>

QRコード



高次脳機能障害相談・支援センター事業

高次脳機能障害相談・支援センターでは、ご本人やご家族が安心して充実した生活を送ることができるよう、当事者や家族、支援機関等からの相談対応をはじめ、各種研修会や教室等を開催しています。

1 講座 [本人・家族のための高次脳機能障害講座]

ご本人やご家族が高次脳機能障害についての理解を深める教室であり、日々の悩みや思いを語り合う場です。
(毎回講義の後、「患者と家族の会つばさ」の会員を交え座談会を行います。)

回	日時	内容および講師	会場	対象者
1	9月11日(金) 13:30~15:30	講義:高次脳機能障害の理解と対応について 講師:県リハセンター職員	県リハセンター	高次脳機能障害のある方、家族
2	11月9日(月) 13:30~15:30	講義:利用できる社会資源について 講師:県リハセンター職員		
3	1月19日(火) 13:30~15:30	講義:就労について 講師:石川障害者職業センター職員		
4	3月5日(金) 13:30~15:30	講義:家族会の活動について 講師:高次脳機能障害患者と家族の会つばさ 会員		

2 就労者のつどい [わくワークの会]

就労されている高次脳機能障害者同士の交流の場です。職場で生じる悩みなどを語り合い、精神の安定を図りつつ就労の継続を目指します。※当事者を支援する方からご紹介ください。

回	日時	内容および講師	会場	対象者
1	10月11日(日) 13:30~16:00	内容:座談会、レクリエーション等 助言者:こまつ障害者就業・生活支援センター職員	ほっと あんしんの家	一般就労や就労継続支援A型に勤務されている方
2	3月6日(土) 13:30~16:00	内容:座談会、レクリエーション等 助言者:金沢障害者就業・生活支援センター職員		

3 研修会

回	日時	内容および講師	会場	対象者
1	8月4日(火) 14:00~15:30	講義:高次脳機能障害への対応 高次脳機能障害相談・支援センターについて 講師:県リハセンター職員(作業療法士、保健師)	Web開催	支援者
	8月5日(水) 14:00~15:30	講義:高次脳機能障害の医学的知識、対応方法 講師:やわたメディカルセンター リハビリテーション科 科長 池永康規氏(医師)		
2	8月17日(月) 14:00~15:30	講義:高次脳機能障害への対応 高次脳機能障害相談・支援センターについて 講師:県リハセンター職員(作業療法士、保健師)		
	8月18日(火) 14:00~14:30	講義:高次脳機能障害の医学的知識、対応方法 講師:県リハセンター職員(医師)		
	2月ごろ	講義:高次脳機能障害者へのリハ専門職に必要な支援技術について ~退院後の生活・就労を見据えた関わりのコツ~(仮) 講師:脳外傷友の会ナナ クラブハウスすてっぷなな 野々垣 睦美氏(作業療法士)	県リハセンター	医師、 理学療法士、 作業療法士、 言語聴覚士 等

4 出前講座

高次脳機能障害に関する基本的な知識や対応方法等について、職員が皆様の会合や学習会等へ伺い、ご説明します。内容や時間などはご希望に応じて調整しますので、まずは電話等でご連絡ください。

対象者:高次脳機能障害の当事者を支援する方々、自治会やNPOなどの地域の各種団体(概ね10人以上)

5 生活支援教室

高次脳機能障害のある方が、当事者同士の交流や活動を通じて、自身の障害についての理解を深めるとともに、日常生活の自立や社会参加に向けて、必要な代替手段を獲得することを目標とした当事者向けの教室です。

※医療機関等からご紹介ください。

★ 上記日程は変更の可能性もあります。参加を希望される方は事前に当センターまでお問い合わせください。

石川県高次脳機能障害相談・支援センターホームページ

<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/koujinou/>

QRコード



虹の窓から

「生活不活発になっていませんか ～ 気づきのポイントと対策 ～」

令和2年度の始まりは、新型コロナウイルス感染症による外出自粛に伴う「ステイホーム」がキーワードとなっています。感染拡大防止の取り組みが重要な一方で、高齢者や障害のある方の生活活動の低下による「生活不活発病」が課題となります。なんとなく住み慣れた家で生活ができているので、『自分自身の筋力低下に気づきにくい』、『周囲にも気づかれない』ということが起きているのです。生活不活発病を防ぐためには「早く気づき（発見）、早く対応（回復）」することが重要で、不活発な状態を長引かせないことが肝心です。

現在、予防に取り組まれている方も多いかと思いますが、情報が溢れているため、今回、支援者（関わりを持つ方）の気づきのポイントと対策についてまとめてみましたので参考にいただければ幸いです。

< 気づきのポイントについて >



声かけをしてください

眺めているだけでは、本当の身体状況は分かりません



『大丈夫』を鵜呑みにしないでください

周囲への気遣いの返事もかもしれません



普段の状態を知っておいてください

立つ、座る、歩く、話す様子に変化はありませんか

こんな時は医師や医療関係者に相談しよう！

「頻繁に横になっている」

「動いたときに疲れやすい」

「起き上がったときの気分不良や立ちくらみ」

「うつ状態」

「一時的な知的能力低下」 等



< 対策・予防について >



なるべく動くように声かけをしてください

「寝るより座る」・「座るより歩く」です



身の回りの片付けを勧めてください

自分ですることは「大事な役割」です



バランスよく食べることを促してください

特に筋肉を作る「たんぱく質」は重要です
(脱水予防の水分補給も忘れずに)



心の健康に配慮してください

人との交流は大切です（電話やメール、LINE等を利用して不安解消や認知症予防を）

生活不活発チェックリストも活用しよう！

厚生労働省

<https://www.mhlw.go.jp/content/10600000/000351491.pdf>

合言葉は

『動いて！食べて！
おしゃべりして！』

引用) 石川県理学療法士会



ヘルプマークを知っていますか？

ヘルプマークは、難病や内部障害など援助や配慮が必要な方が、日常生活や災害時にそのことを周囲に知らせるマークです。マークを身につけた方を見かけたときは、ぜひ思いやりのある対応をお願いします。

※東京都が考案してJIS化され、全国で普及が進んでおり、石川県でも配布しています。

配布場所：県障害保健福祉課、各市町福祉課、県保健福祉センター、県リハビリテーションセンター 等

問い合わせ先

石川県リハビリテーションセンター

TEL (076) 266-2860 FAX (076) 266-2864

E-mail iprc@pref.ishikawa.lg.jp

URL <https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kousei/rihabiri>



難病相談・支援センター

TEL (076) 266-2738 FAX (076) 266-2864

E-mail nanbyou@pref.ishikawa.lg.jp

URL <https://www.pref.ishikawa.lg.jp/nanbyou/>



高次脳機能障害相談・支援センター

TEL (076) 266-2188 FAX (076) 266-2864

URL <https://www.pref.ishikawa.lg.jp/koujinou/>



「相談は傾聴、親身、親切に」
リハビリテーションセンターでは
県民ニーズに応えるため、
より質の高いサービスの提供を
目指しています。

編集・発行

石川県リハビリテーションセンター
〒920-0353 金沢市赤土町ニ13-1